

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491100055		
法人名	有限会社 CMT		
事業所名	グループホームよろうち(1号館)		
所在地	大分県宇佐市院内町原口583		
自己評価作成日	令和4年12月12日	評価結果市町村受理日	令和5年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年2月8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①運営母体の医療法人と密着し、必要な医療が適格かつ迅速に受けられる。
- ②家族と密接に連絡をとるなどし、家族のニーズを知り自宅にいる時と同じように生き活きと安心して生活できるように職員全体で個別サービスが出来るような支援を心掛けている。
- ③コロナ禍で外出はしていない、時候の良い時に近隣の散歩で気分転換を図っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・自然豊かな山あいに位置し四季を感じることが出来る。
- ・母体の診療所との連携があり何かあれば直ぐに往診してもらうことが出来、本人・家族は安心している。
- ・利用者本位の支援に心掛けておりその人らしい生活が送れるよう職員皆で取り組んでいる。
- ・コロナ禍でもガラス越しではあるが面会は継続して行われている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を管理者と職員は共有し、意識づけをしていくために、声に出して読み上げ実践につなげている。	毎朝申し送りの後理念を唱和している。家にいる時と同じように安心して暮らせ、利用者の思いを尊重した支援に職員全員取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防により、地域との交流ができてない。	運営推進会議に毎回区長が出席し地区の行事を知らせてくれたり、施設からはたよりを区長に渡すなど情報の共有がなされている。地域から新鮮な旬の野菜をもらうなど交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は、開催できている為、そこで認知症についての意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、サービスの実務や入居者の現状報告を行い、出席者に意見や要望をいただいて、できることは実施している。	コロナ禍でも2か月に1度の推進会議は継続して対面で開催されている。コロナや疥癬の感染について予防や対処の仕方など話し合っている。他の事業所の対策方法を聞いたり、抗原検査情報を教えてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの運営にあたり、分からないことは運営推進会議を利用するなどして市の担当者に相談し指導を仰いでいる。	コロナや疥癬の感染を保健所に連絡し適切な処置方法など指示を仰いでいる。わからないことがあればその都度電話で聞くなど市との連携が取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月に1回実施、拘束しないですむような方法を模索しながらケアを行っている。	拘束をしないケア実践に向け職員みんなで取り組んでいる。点滴時見守りの回数を増やす事で拘束しない対応ができています。スピーチロックには気を付け言葉かけを工夫している。事故防止の為家族に説明し承諾の上センサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主に、ミーティング時に、話し合いを行い、虐待防止に努めている。		

事業者名:グループホームよろうち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対応が必要な入居者はいないが、勉強会機会をつくり、知識の習得を図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書を読み上げながら内容の説明や利用料金、医療連携体制、ケアの取り組みを説明すると共に、家族の希望や不安な点を尋ね納得していただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言葉や態度から思いを察し、日々のケアに活かすように心掛けている。家族からの意見・要望は、職員間で検討し、改善策を考えている。	面会時や電話で意見などを聞いている。補聴器があるのにつけていないという指摘に本人が直ぐ外すのでつけていないと回答している。表情が暗い事については職員で話し合い、解決策を検討し結果を家族に知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやミーティング時に、意見を出してもらい業務の変更などを決め、反映させている。管理者は、個別に業務に関しての思いを聞き代表者に伝えている。	ふだんその都度要望などを聞いている。勤務変更の時は届を出す、勤務の希望時間を聞くなど働きやすいように改革をしている。看取りを実施した後は職員の心身の労をねぎらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に対し、年に1回健康診断を実施、また、経営母体の院長に相談し体調管理の支援を受けている。労働条件などの要望があれば管理者へ報告するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する情報を収集、共有しミーティング時に、問題点を話し合っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・リーダーは、他事業所へ訪問し説明を受けながら実際に入居者の生活や職員の対応を目にすることで、参考となる部分は自施設で実践し質の向上につなげている。(コロナ禍で、訪問は控えている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームへ見学に来てもらい、本人の生活の様子や希望を聞き、本人と向き合いながら今までと変わらない生活をしていただけるように考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や、不安に思っている事、思いを聞きそれを踏まえたサービスの内容や1日の流れを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後、少しずつ会話をしながらコミュニケーションをとり、その方を把握し必要な支援を見極め、家族と話し合い対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の思いを感じ取り、共に生活しているような雰囲気を作っている。入居者から人生の先輩として教わることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、施設での生活の様子を伝えたり、必要であれば電話などで本人の希望を伝え、家族に協力をお願いし、本人の思いを共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、家族以外の方との面会が行えていない。	以前は友人が良く来ていた。今は親戚の人から電話があり、問い合わせに答えている。地区の理容室から毎月1回散髪の来所があるなど交流が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の人間関係を把握しテーブルの座席位置を常に検討し、良好な人間関係が保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し施設が変わった場合、変わった先の関係者へ本人の状況、習慣、思いなど詳しく伝えケアの参考にさせていただいている。また、家族へ退所後様子を聞くなどし、関係を断ち切らないようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者の言葉や態度から本人の思いや意向を把握できるようにしている。	日々かわりの中から思いを汲み取っている。言葉に表せない人に対しては顔の表情や態度で読み取っている。利用者一人ひとりの思いに沿った対応に心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始時に、家族から状況を聞き把握している。入所後も分からないことは、随時電話でお尋ねするようし、生活の継続性を考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活リズム(バイタル、排泄、食事量、睡眠時間等)を記録し、職員全員で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との日頃の関わりの中で課題が生じた場合は、毎月のミーティングや日々の連絡時に改善している。	利用者一人に担当者がついておりその職員の意見や家族の要望、本人の希望を聞いて毎月のミーティングで話し合いプランを作成している。状態が変わればその都度プランの変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、毎日の食事量、バイタルなどを記録し職員間で共有している。介助に対する反応も記録し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医による定期受診や看護師との相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、多くの人との連携が取りづらい。近所の理容師による散髪は継続されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体が医療法人ですが、契約時に家族・本人の希望するかかりつけ医の受診ができることを説明し受診の支援を行っている。定期受診を行い体調不良時は、訪問診療など随時対応している	かかりつけ医は選ぶことができる。母体の診療所から2週間に1度訪問診療があり希望によりほとんどの家族が受けている。眼科などの専門医は家族が対応している。職員が受診に同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師(4名)が介護士として勤務しており、医療の視点から状態の変化に早く気付くことができている。当法人診療所と連携をとりその都度報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は、当法人診療所経由で行っている。退院前は、医療連携室等から今後の対応について連絡がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的に看取りまでは行わないが、家族の強い要望があった場合、施設としてできる事できない事を伝え、家族の協力を得て支援している。	入居時に重度化した場合の施設の方針を説明している。基本的には看取りは行わないが家族の希望があれば医師の指示を仰ぎ、看護師資格の職員中心に看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えマニュアルを作成している。当法人診療所の看護師に応急手当の方法を教えていただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の他、ミーティング時に火災時の避難方法、消火器の使い方を全職員へ指導している。当地区の区長へは、避難時の協力をお願いしている。	消防署立ち合いのもと消火通報訓練を行った。利用者を車に乗せて山村センターまで避難訓練をした。備蓄は水とクラッカーを倉庫に保管している。敷地内にある厨房にパンなど食料の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全入居者が入居者一人一人のを傷つけないような対応を常に心がけ、具体的に尊厳保持が守られていない事例があった場合は、気付き報告書へ記載し共有して改善に努める。	プライバシー保護の観点から排泄時カーテンを閉めてはいるが職員は安全の為声掛けをしている。入浴では利用者の羞恥心に気を配っている。脱衣時見られたくない気持ちを察しながら、安全にも配慮しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で訴えを言葉で表現できない入居者に対しても表情の変化を見逃さず、声掛けし、意思の確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、本人の意思を尊重し無理強いせず、本人のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る洋服は、本人に選んでもらっている。本人が決められない時は、声掛け、表情を読み取り選択している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のレベルに合わせてメニュー、切り方、量、器の種類を細かく決め対応している。苦手な物は、別の物に変えて残さず食べていただけるように努めている。	職員も同じテーブルで同じものを一緒に食べている。出来たものが厨房より運ばれてくる。誕生会ではケーキでお祝いをしている。年間の各行事には旬の食材を使い、季節を感じてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は介護記録に記載。水分摂取が困難な方や水分制限のある方は別に水分量も記載している。食事スピードや飲み込みの状態を把握し、切り方や器の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔状態や力に応じた支援をしている。義歯私用の方は、週1回洗浄剤に浸け置きしている。		

事業者名:グループホームよろうち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレは各居室毎に設置、尿意を訴えない方も表情などから察知したり、排泄チェック表でパターンを知り誘導している。介護記録に記入していくことで排泄状態を把握し共有できている。	トイレで排泄という意識を継続するためなるべくトイレに行ってもらっている。排泄パターンを把握しており時間を見てトイレ誘導を行っている。夜間も時間を見て声掛けするが、眠っている人は起こさないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を整えるために、パン食の日はヨーグルトを食べていただいたりしている。排便の記録を取り、排便がないときは、一人一人に合わせた排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夏は週3回、冬は週2回入浴日を決めている。衣類選びから着脱、入浴が終わるまでの介助見守りを会話しながら行っている。拒否のある方は、無理強いせず時間を置いたり、順番を変えるなど工夫している。	週2、3回の入浴であるが、清拭は随時行っており体の清潔保持に努めている。リフトを使ってほとんどの人が浴槽に浸かれ、ゆっくり入浴を楽しんでいる。入浴を拒否する時は無理強いせず声掛けを変えたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での習慣を把握し消灯時間以降もリビングで過ごしたり、夜中に起きて来られた時は、会話をして気分が落ち着けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬が把握できるように薬情書ファイルを作成共有している。薬の変更は、申し送りで伝えノートに記入している。服薬後の確認を行い飲み込みの悪い利用者は、ゼリーで対応し確実に服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでは、各利用者の好みや能力を活かし個別でパズルや張り絵、読書などを行ってもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は、敷地内を散歩したり花壇の花を見て季節感を味わってもらっている。	以前はドライブや買い物に出かけていたがコロナ禍で中止となっている。天気の良い日には外に出て敷地内を散歩したり玄関先に咲いている花をみるなどして気分転換をはかっている。	



事業者名:グループホームよろうち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでのお金は所持しないようにしている。必要な物がある場合は、家族へ連絡し購入していただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の事が気になり落ち着かない時や利用者から訴えがある場合は、電話をかけられるよう支援している。又、定期的にご家族から電話がある方は、取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日の大半を過ごすリビングには、湿温時計があり、エアコン、床暖房で空調管理をしたりカーテンをこまめに上げ下げして光の調整を行っている。又、季節の花を飾るなどして季節感を味わってもらっている。	リビングの窓は大きく明るい日差しが差し込んでいる。廊下も天窓があり施設内は明るい。壁には季節を感じさせるような貼り絵などが飾られている。音楽が流れのんびりと外の山々を眺めたり、思い思いの生活を送ることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや椅子を置き、好きな時に座ってもらい気分転換をしたり、新聞やテレビを見てもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持参した馴染みの物を置く事で家にいる時同じ気分になってもらえるようにしている。家族の写真やプレゼントを置き心地よく過ごしてもらえるように配慮している。	家族の写真や使い慣れたタンスなどを持ち込み、習字など作品を飾りこれまでと変わらない暮らしが継続できるように工夫された部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で洋服が取り出しやすいように引き出しに見出しを付けたり、居室内トイレの場所を表示したり、不安なく過ごせるように環境整備している。居室の入口に表札を付け居室とリビングを安心して行き来できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491100055		
法人名	有限会社 CMT		
事業所名	グループホームよろうち(2号館)		
所在地	大分県宇佐市院内町原口583		
自己評価作成日	令和4年12月12日	評価結果市町村受理日	令和5年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①運営母体の医療法人と密着し、必要な医療が適格かつ迅速に受けられる。
②家族と密接に連絡をとるなどし、家族のニーズを知り自宅にいる時と同じように生き活きと安心して生活できるように職員全体で個別サービスが出来るような支援を心掛けている。
③コロナ禍で外出はしていない、時候の良い時に近隣の散歩で気分転換を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホームよろうち1号館に記載】
---------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を管理者と職員は共有し、意識づけをしていくために、声に出して読み上げ実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防により、地域との交流ができてない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は、開催できている為、そこで認知症についての意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、サービスの実務や入居者の現状報告を行い、出席者に意見や要望をいただいて、できることは実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの運営にあたり、分からないことは運営推進会議を利用するなどして市の担当者に相談し指導を仰いでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月に1回実施、拘束しないで済むような方法を模索しながらケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	主に、ミーティング時に、話し合いを行い、虐待防止に努めている。		

事業者名:グループホームよろうち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対応が必要な入居者はいないが、勉強会機会をつくり、知識の習得を図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書を読み上げながら内容の説明や利用料金、医療連携体制、ケアの取り組みを説明すると共に、家族の希望や不安な点を尋ね納得していただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言葉や態度から思いを察し、日々のケアに活かすように心掛けている。家族からの意見・要望は、職員間で検討し、改善策を考えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやミーティング時に、意見を出してもらい業務の変更などを決め、反映させている。管理者は、個別に業務に関しての思いを聞き代表者に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に対し、年に1回健康診断を実施、また、経営母体の院長に相談し体調管理の支援を受けている。労働条件などの要望があれば管理者へ報告するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する情報を収集、共有しミーティング時に、問題点を話し合っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・リーダーは、他事業所へ訪問し説明を受けながら実際に入居者の生活や職員の対応を目にすることで、参考となる部分は自施設で実践し質の向上につなげている。(コロナ禍で、訪問は控えている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームへ見学に来てもらい、本人の生活の様子や希望を聞き、本人と向き合いながら今までと変わらない生活をしていただけるように考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や、不安に思っている事、思いを聞きそれを踏まえたサービスの内容や1日の流れを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後、少しずつ会話をしながらコミュニケーションをとり、その方を把握し必要な支援を見極め、家族と話し合い対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の思いを感じ取り、共に生活しているような雰囲気を作っている。入居者から人生の先輩として教わることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、施設での生活の様子を伝えたり、必要であれば電話などで本人の希望を伝え、家族に協力をお願いし、本人の思いを共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、家族以外の方との面会が行えていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の人間関係を把握しテーブルの座席位置を常に検討し、良好な人間関係が保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し施設が変わった場合、変わった先の関係者へ本人の状況、習慣、思いなど詳しく伝えケアの参考にさせていただいている。また、家族へ退所後様子を聞くなどし、関係を断ち切らないようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者の言葉や態度から本人の思いや意向を把握できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始時に、家族から状況を聞き把握している。入所後も分からないことは、随時電話でお尋ねするようし、生活の継続性を考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活リズム(バイタル、排泄、食事量、睡眠時間等)を記録し、職員全員で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との日頃の関わりの中で課題が生じた場合は、毎月のミーティングや日々の連絡時に改善している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、毎日の食事量、バイタルなどを記録し職員間で共有している。介助に対する反応も記録し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医による定期受診や看護師との相談を行っている。		

事業者名:グループホームよろうち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、多くの人との連携が取りづらい。近所の理容師による散髪は継続されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体が医療法人ですが、契約時に家族・本人の希望するかかりつけ医の受診ができることを説明し受診の支援を行っている。定期受診を行い体調不良時は、訪問診療など随時対応している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師(4名)が介護士として勤務しており、医療の視点から状態の変化に早く気付くことができている。当法人診療所と連携をとりその都度報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は、当法人診療所経由で行っている。退院前は、医療連携室等から今後の対応について連絡がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的に看取りまでは行わないが、家族の強い要望があった場合、施設としてできない事を伝え、家族の協力を得て支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えマニュアルを作成している。当法人診療所の看護師に応急手当の方法を教えていただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の他、ミーティング時に火災時の避難方法、消火器の使い方を全職員へ指導している。当地区の区長へは、避難時の協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全入居者が入居者一人一人のを傷つけないような対応を常に心がけ、具体的に尊厳保持が守られていない事例があった場合は、気付き報告書へ記載し共有して改善に努める。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で訴えを言葉で表現できない入居者に対しても表情の変化を見逃さず、声掛けし、意思の確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、本人の意思を尊重し無理強いせず、本人のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る洋服は、本人に選んでもらっている。本人が決められない時は、声掛け、表情を読み取り選択している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のレベルに合わせてメニュー、切り方、量、器の種類を細かく決め対応している。苦手な物は、別の物に変えて残さず食べていただけるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は介護記録に記載。水分摂取が困難な方や水分制限のある方は別に水分量も記載している。食事スピードや飲み込みの状態を把握し、切り方や器の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔状態や力に応じた支援をしている。義歯私用の方は、週1回洗浄剤に浸け置きしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレは各居室毎に設置、尿意を訴えない方も表情などから察知したり、排泄チェック表でパターンを知り誘導している。介護記録に記入していくことで排泄状態を把握し共有できている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を整えるために、パン食の日はヨーグルトを食べていただいたりしている。排便の記録を取り、排便がないときは、一人一人に合わせた排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夏は週3回、冬は週2回入浴日を決めている。衣類選びから着脱、入浴が終わるまでの介助見守りを会話しながら行っている。拒否のある方は、無理強いせず時間を置いたり、順番を変えるなど工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での習慣を把握し消灯時間以降もリビングで過ごしたり、夜中に起きて来られた時は、会話をして気分が落ち着けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬が把握できるように薬情書ファイルを作成共有している。薬の変更は、申し送りで伝えノートに記入している。服薬後の確認を行い飲み込みの悪い利用者は、ゼリーで対応し確実に服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでは、各利用者の好みや能力を活かし個別でパズルや張り絵、読書などを行ってもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は、敷地内を散歩したり花壇の花を見て季節感を味わってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでのお金は所持しないようにしている。必要な物がある場合は、家族へ連絡し購入していただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の事が気になり落ち着かない時や利用者から訴えがある場合は、電話をかけられるよう支援している。又、定期的にご家族から電話がある方は、取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日の大半を過ごすリビングには、湿温時計があり、エアコン、床暖房で空調管理をしたりカーテンをこまめに上げ下げして光の調整を行っている。又、季節の花を飾るなどして季節感を味わってもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや椅子を置き、好きな時に座ってもらい気分転換をしたり、新聞やテレビを見てもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持参した馴染みの物を置く事で家にいる時同じ気分になってもらえるようにしている。家族の写真やプレゼントを置き心地よく過ごしてもらえるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で洋服が取り出しやすいように引き出しに見出しを付けたり、居室内トイレの場所を表示したり、不安なく過ごせるように環境整備している。居室の入口に表札を付け居室とリビングを安心して行き来できるようにしている。		